

大野市子ども・子育て会議（第1回）会議結果の概要

日 時 令和元年7月2日（火）午後7時～

場 所 結とびあ 302号室

1 開 会

2 委嘱状交付

3 市長あいさつ

4 自己紹介

5 会長、副会長の選任について

会長 青井夕貴 氏 副会長 清水 進治 氏

6 議 事

(1) 大野市子ども・子育て支援事業計画（案）の策定について

○計画策定の趣旨について

事務局が別添資料に基づき説明

【意見等】

- ・「2 計画の位置づけ」のところで、子ども・子育て支援法に基づく計画であることは記載があり分かるが、この計画に盛り込む大野市次世代育成支援対策推進行動計画の部分は根拠となる法の記載がないので、次世代育成支援対策推進法に基づくものであることを明記した方がよい。

⇒そのようにしたい。

○本市の出生数などの推移の状況について

事務局が別添資料に基づき説明

【意見等】 特になし

○本市の子育て支援事業等の取り組みについて

【意見等】

- ・第2章の教育・保育の量の見込みと提供体制のところ、実績が見込みを上回っている場合にどういう状況になっているか。地域・子ども子育て支援拠点事業、乳児家庭全戸訪問事業、養育支援訪問事業、放課後児童クラブについて教えてほしい。

⇒3号認定のお子さんは定員を上回って受入れをしている。利用定員を年齢ごとに定めてはいるが、低年齢で入所を希望するお子さんが多いので定員のおおむね120%を目安に入所をお願いしている。保育士配置基準と面積基準を満たした上で、利用者ニーズに対応している。

- ・見直して、見込みを上げておけばよいのではないか。
- ⇒毎年子ども・子育て会議で見直ししているが、利用定員というのが各施設の支払う金額の目安となっており、定員を変更することは施設の運営に影響が出る。各施設と相談しながら行っている。
- 当初策定時は子どもが減ると見込み、入所児童数も減ると見込んだが、見直しにより、当初より利用定員を確保している。お子さんが1歳になった時点での入所が多くなってきているが基準は満たしている。
- 乳児家庭全戸訪問事業は、見込みを超えているが、4か月までに保健師、看護師が必ず訪問しておりサービスの提供はできている。
- 養育支援訪問事業は、虐待を疑われるなどの家庭を訪問し支援を行っている。児童相談所の専門職員の配置を拡充するなどの法改正がされたが、市も今後支援体制を検討していく必要がある。
- 放課後児童クラブについては、利用者も多くなっているが、面積基準、職員体制もとれている。今後の出生数の推移を考え、放課後児童クラブの量、確保対策を検討したい。
- ・実績が増えている状態になると、そのしわ寄せがどこかにいっているとしたら見込みは多い方がよいのではないかとということで意見を述べさせていただいた。

○昨年実施した保護者に対するニーズ調査結果について

事務局が別添資料に基づき説明

【意見等】

- ・複数回答の集計方法が違うと思われるので見直した方がよい。
- ⇒修正する。
- ・グラフの解説の記載があるとよい。
 - ・自由意見も、計画にするときは整理して載せた方がよい。
 - ・16 ページで、ニーズはあるけれど、実施している事業自体を知らない方もいるのではないかと、この点も課題になるのではないかと。包括支援センターの役割など課題になると思う。
 - ・36 ページの満足度調査では、満足度を高いとみるか低いとみるか、どう解釈するのを踏まえ計画を策定していくのだと思う。

(2) その他

【事務局】 次回の素案の事前送付と第2回会議について説明。団体や会の中の意見も広くお聞きしたいので願います。

7 閉 会